

兵庫県立農業高等学校(全日制) 令和4年度学校評価報告書

1 学校教育方針

校訓「ゆたかな情操・たゆまぬ研鑽」の精神を基調に、21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できること豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) ころ豊かな人格の完成をめざし、自主・自立の精神と積極的な実践力を養成する。
- (2) 社会情勢の変化に対応できる基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ意欲・態度を養成する。
- (3) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にす豊かな情操や徳性を育む。
- (4) 新しい時代に即応した青年農業経営者並びに関連産業従事者に必要な広い知識と技術を身に付け、科学的な経営能力を育成する。
- (5) 人と自然の調和をめざした環境づくりに貢献する実践的な態度や能力を育てる。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・各分野について、学校自らが課題を抽出し改善方策等について検討・実施されており、学校関係者へも分かるように資料等を示した上で評価できるよう配慮されている。
・多様な学校関係者(生徒、保護者、職員)の学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当と思われます。

5 総合的な学校関係者評価

・全体として非常に熱心に取り組んでおられると思います。状況の改善を要する項目については、方策を多方面に検討され、実践につなげていただこう願います。
・「県農」の伝統を守りながら実践校として、新たなことに取り組まれるなどの努力と成果が認められる。引き続き農業を核とした人材育成に関係機関に協力を得ながら、各学科の特色化と学校の魅力づくりを行い、人材育成を図ることを期待します。地域とも連携をしながら、さまざまな取り組みを期待します。

・目標を持って学んでいる生徒と向き合う県農の教育方針は、すばらしいと思います。保護者や生徒自身がが県農に入学して良かったという回答も多く、生徒が研究会活動などを通じて自己実現を図っており、進路実現に向け、先生方の指導のもと、努力を重ねていると思います。生徒の夢や希望を叶えられる学校であってほしいと思います。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・改善の方策
1 開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信 ・学校施設や教育資源の地域への開放 ・PTCAとの連携 ・積極的な学校運営の推進	A	・研究・連携推進部をはじめ各部署、学科、部活動などと連携し、各家庭や地域そして中学生に生徒の活動や県農の取り組みを紹介するためにホームページや農のチャレンジ等を活用した。 ・学校開放については、本校の行事等との関係が難しい時期も多く、十分実施できていない。しかし教育資源に関して十分な開放は出来ていないが、地域の子供たちの収穫体験行事や小高・高特連携あるいは地域自治会や教育機関などとの交流や見学依頼を受け実施している。 ・コロナ禍ではあるが、広報活動や朝の立番指導などを中心にPTA活動も再開されている。また講演会や校内の施設の充実等への援助も行っていた。 ・学校運営がスムーズに進むよう関係部署との意思疎通を密にとるようにしている。 ・ホームページ更新に加え、今年度よりInstagramによる情報発信を行っているが、まだ周知できていない部分もあり、今後の課題である。 ・地域での農産物販売やボランティア活動など地域での活動の機会が徐々に増えてきている。
2 生徒指導	・生徒の内面理解を図る指導の工夫 ・生徒の自主・自立の精神の育成 ・学校行事の活性化 ・いじめの防止と組織的対応 ・交通安全意識の向上	B	・定期的な面談を実施し、生徒理解に努めている。 ・生徒会が常に生徒の意見を聞ける機会を作っており、生徒が学校のために誇りをもって生活できるように、行事の企画や運営をしている。 ・校内祭、体育大会、生徒指導講演会などコロナ禍ではあるが実施する。 ・年3回の「学校生活に関する調査」をGoogleで実施した。その結果、生徒が自分のタイミングで入力することができ、些細なことで担任・学年が把握できるようになった。 ・年数回のPTAとの合同指導ではスマートフォンの使用やイヤホンの着用を指摘され、生徒に全校集会等で安全対策について日々指導している。
3 教育課程	・体験的・問題解決的な学習の推進 ・専門教科の充実 ・情報活用能力の育成 ・指導方法と評価方法の工夫	B	・新教育課程に関する職員研修会を開催し、評価方法の共通理解を図った。 ・専門教科を中心に、さまざまな体験学習や「課題研究」を通して、主体的・対話的な学習を推進し、個々の学びを深めることができた。 ・課題研究発表会では、課題を発見し、その課題を研究することで課題の解決に向けて取り組み力が身についた。 ・Office365やGoogle WorkspaceなどICTを活用した共同学習、遠隔交流、課題、アンケート、連絡、相談、アンケート等を実施し、生徒の学習の深化と情報活用能力の向上に取り組んだ。 ・ICTの積極的な活用を呼びかけ、校内での事例をまとめて共有した。
4 進路指導	・主体的な進路選択への支援 ・職業観・勤労観の育成 と進路意識の向上 ・キャリアプランニング能力の向上	A	・計画的に進路ホームルーム、進路面談を実施し、自らの意思と責任で主体的に進路を選択し決定できる能力や態度の育成に努めた。 ・生徒の進路実現に向けた補習の時期や内容を感染防止対策を徹底しながら検討、実施した。 ・キャリアプランニング能力の向上に向け、ガイダンスを充実するなど、家庭や地域、企業とも連携して自立した社会人・職業人として必要な能力の育成に努めた。 ・各種検定取得や生徒個々に応じた就職進学指導などに積極的な取り組みを行った。
5 学校の個性化・多様化	・地域連携教育の推進 ・職業体験学習の推進 ・他校種連携の推進 ・農業従事者及びスペシャリストの育成 ・他国の歴史や文化及び農業の理解	A	・生徒の興味関心や進路希望に寄り添った受け入れ先を選定してインターンシップを行い、レポートやプレゼンテーション、礼状などの作成を通して勤労観や社会性の育成に取り組んだ。 ・農産物の地域販売・出荷、農商連携など地域活動に意欲的に取り組み、生徒の学びを深めるとともに地域貢献を果たした。 ・特別非常勤講師を活用し優れた知識・技能を有する社会人の方を招き、より深い技術を習得することができた。
6 危機管理体制の整備	・家庭・地域・関係機関と連携した危機管理 ・教職員の実践的な研修 ・教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上 ・農場の安全管理の徹底	B	・学校施設が地域の防災拠点であることを認識し、コロナ禍で近年実施できていなかった本校周辺自治会との懇談会を3年ぶりに実施し、お互いの立場と問題点を共有した。さらに懇談会で出された問題点を加古川市危機管理室に質問しその回答を各自自治会へ伝え共通理解を得られるよう務めた。 ・防災避難訓練を実施する前に研修会を開き本校の防災マニュアルの内容と各自の役割を確認した。また訓練の内容や流れを周知し生徒等への掛け合いの意義等についても確認を行い各職員が実践力を高められるよう工夫した。 ・農場での安全管理の徹底に向けてリスクマネジメントについて話し合う機会を設けた。また、校内の危険な通路の補修など実習をおとして修繕した。
7 人権教育の推進	・人権尊重の精神の涵養 ・組織的な取組 ・インターネットによる人権侵害の予防 ・教職員の指導力向上	A	・各学年の年間計画に基づいた人権ホームルームを通して、人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、共生社会の実現に向け主体的に取り組む実践力の育成を図った。 ・1学年に人権に関するアンケートを行い、意識や関心を調査、今後の人権教育への課題研究を行った。 ・ヤングケアラー等比較的新しい人権機関やインターネットによる人権侵害など、職員研修を経て各ホームルームで授業を実施することにより、教職員の人権意識や指導力の高揚を図った。
8 教職員の資質向上	・実践的指導力の向上 ・社会の変化に対応した教育観の育成 ・魅力ある授業の実践 ・服務規律の遵守 ・働きやすい職場環境づくりを進める	B	・新教育課程に関する職員研修、年間2回の授業公開週間を実施し、実践的指導力の向上や評価の改善につなげた。 ・専門教育の更なる深化に向けて、最新の知識や技術の収集に努めるとともに、学科間、教職員間の共有化を図った。 ・特別支援やヤングケアラーに関する職員研修会を行い、生徒への適切な声かけなど傾聴姿勢を持って、指導にあたることを研修で確認した。また関係諸機関とも連携し、生徒支援を行った。 ・服務規律の遵守について、研修等により共有し注意し合うとともに、教職員としての誇りと責任を自覚して自己の行動を律するよう促した。 ・定時退勤日・ノー部活デー・ノー会議デーの実施、学校開庁日の設定、留守番電話の設置を行い、教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間の確保に努めた。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・学校ホームページ、Instagram、農のチャレンジ等を活用し、生徒の取り組みを地域や中学生、保護者に紹介する取り組み、丁寧でタイムリーな情報発信がなされている。農のチャレンジは地元企業にも配布され、7学科の取り組みの周知に役立っている。特に県農ホームページの県農なうの更新頻度は高く、各学科、部活動の取り組みがわかりやすく紹介されているので、その取り組みを継続してほしい。 ・国や兵庫県の感染症対策指針を踏まえ、学校行事計画を立て、生徒が活躍できる学校行事の充実を図ることを期待している。3年間実施できていない県農祭だが、地域住民や保護者からの開催要望の声もあるので、その実施方法について検討を願う。 ・地域でのイベント参加、ボランティア活動、企業や行政、他校との連携により、生徒が活躍できる場を提供し、生徒の学びを深めてほしい。
・Googleアンケートにより、生徒情報を迅速に把握し、生徒対応につなげていることは評価できるが、いじめ対応などまだ教師の対応が不十分と考える生徒もいるので、担任や生徒指導部、科の職員が連携し、支援体制と指導体制を強化していくことが課題である。 ・生徒同士のSNSトラブル事業があるので、講演会を始め、情報モラル指導やHRでの指導など学校教育全体を通じて、情報モラルについて意識啓発と理解を深める指導を行うことを継続課題とする。 ・本校の教育方針を踏まえた校則の見直しについて、引き続き委員会等で検討を行っていくことを今後の課題とする。
・教職員が学習用タブレットPCやOffice365、Google Workspaceを使ったICT教育を実践し、授業内でも話し合いや話し合い結果の入力、全体共有など授業で協同学習の場面が多くなり、よりわかりやすい授業を行うことができた。今後さらに工夫を重ねたICT活用実践を行う。またICT活用に自信が持てない教職員に対してもサポート体制、研修体制を整える。
・観点別評価をはじめ、学習評価について、教職員や生徒の間で共通理解を図り、生徒の学びに向かう態度の育成に引き続き努める。
・キャリアガイダンスを実施し、キャリア意識を持たせることができた。卒業生による進路講話も再開し、生徒の進路意識を高め、より具体的に進路を考える一助となったので、これらの取り組み機会を増やすことを課題とする。 ・年金やライフプランについての進路講話を行い、人生を踏まえた進路指導の実施に努め、早期の進路目標設定に寄与した。これらの取り組みを継続して行う。 ・各種検定に意欲的に取り組む生徒が増えており、教員も積極的なサポートを行っている点を評価する。
・インターンシップを積極的に活用し、雇用就農や独立就農につながる取り組みを行政等と連携しながら行い、キャリア支援を行う方策を検討されることを強く望みます。農業法人説明会などで生徒に就農への意識づけを行っていただいています。ハローワークなどと連携しながら、農業基盤を持たない生徒たちにも就農について考えたり、相談する機会持ってもらえたらと思います。 ・県農マルシェの再開も視野に入れながらも、外部機関や地域との連携を深めながらイベント参加を行い、農産物の販売を中心とした地域貢献活動を引き続き行う。
・公開授業週間は教員同士のよい学び合いの機会となっている。コロナ禍で保護者に授業を見ていただく機会がなかったが、今後保護者や地域にも広く授業公開できるように、その方策を検討する。
・教員数が変わらない現状があるが、特別支援の方法を工夫し、困難を抱える生徒や多様性のある生徒への指導を継続的に行う環境を続けるようにする。
・実習時に生徒への「安全の心得」を理解させる指導を行い、安全に配慮した実習を行う。また施設・設備の点検管理を徹底し、学習環境の整備を行うことを継続課題とする。
・生徒が各教科の学びを深めるだけでなく、生徒の心に寄り添う指導を学校生活全般の中で行うことを教職員が心がける取り組みをお願いしたい。
・従来の人権課題だけではなく、ヤングケアラーの生徒への対応など今日的な課題にも取り組んでいる点を評価する。。
・多様性のある生徒、困難を抱える生徒への対応を継続的にきめ細かく行う取り組みを期待する。教員数が変わらない現状ではあるが、特別支援の方法を工夫し、安全にかつ技能が身に付けられるような実習指導を期待する。
・類型学習により、生徒たちは専門性を高めることができた。デジタル機器の活用により、施設設備の有効活用ができた。今後も安全で円滑な農場経営に努める。
・公開授業週間は教員同士のよい学びあいの機会となっている。コロナ禍で保護者や地域住民の授業見学の機会が持てなかったが、今後は学習成果発表会だけではなく、保護者や地域住民も対象とする授業公開週間の設定を検討する。